

Withコロナ 神奈川工科大学

～ 2021年度のコロナ対策と安心・安全なキャンパスライフのために～

KAIT Researchers File 研究者として教育者として

学科TOPICS／シリーズ「SDGs」

着任の挨拶／KAIT news

Office Information





Withコロナ 神奈川工科大学

～2021年度のコロナ対策と安心・安全なキャンパスライフのために～

学生の安全と健康を第一に可及的速やかな対応を迫られた2020年。いまだ先行きが見通せない状況が続きますが、本学は「Withコロナ」の次段階に向けてさらなる対策と変革を進めています。目指すべきは、安全の確保とともに、学生が確かな成長を実現できる教育環境の実現。ここでは2021年度、さらにはその先を見据えたコロナ対策の進捗についてお知らせします。

(編集部取材による2021年6月1日現在の状況です)

安全かつ質の高い学習環境・授業体系の実現へ

年末から年始にかけての大幅な感染者数の増加は収まったものの、同年4月から神奈川県内の各市に対し、「まん延防止等重点措置」が敷かれるなど、新型コロナウイルスの感染拡大は依然として予断の許さない状況が続いています。

本学では2021年度の授業に当たり、2021年3月10日に「2021年度の授業運営方針について(最終案内)」として、授業実施に関する方針をお知らせしました。特に重要視している実験、実習演習科目等を中心に「対面式授業」を増やし、キャンパスへの入構機会が増えるように考えた内容となっています。今後も学生が安心・安全に学べる環境の確保を最優先としながら、緊急事態宣言の発令等に関わらず、文部科学省や行政機関からの指示・要請のない限り、本年度については本学が定めた方針に基づき、授業を進めてまいります。



具体的な授業運営方針について

現在、全授業科目の50%前後を「対面式」で実施しています。対象科目は各学科における開設科目の中から、オンラインに置き換えられない科目を厳選。学生の登校日が週2～3日程度に分散するように調整しています。一方でオンライン授業については、曜日と時限を定めた「リアルタイム式」と、曜日のみを定めた「オンデマンド式」を授業内容に合わせて採用しています。

なお今後、文部科学省などの行政機関からの指示・要請により対面授業の実施が困難になった場合は、昨年度同様、夏期・冬期休暇期間を活用した集中授業の実施にて対応する計画としています。



2022年度以降の方針について

2022年度以降については、日本全体、並びに本学学生、本学教職員のワクチン接種の状況等を踏まえて判断する方針です。なお「オンライン授業検討会」において、現在オンライン授業の学習効果の検証を進めており、教育の品質向上につながる成果を見込めると判断した場合は、オンライン授業を継続活用した新たな教育体系の構築も視野に含めています。

<情報通信環境の整備について>

学びやすい環境実現に向け、学内外ネットワークを強化

より快適に、質の高いオンライン授業が実現できるよう、本学では通信環境の大幅な強化を行っています。2021年度後期には、新しい高速ネットワークを学内に整備し、学内のどこでもストレスなくオンライン授業を受けられるWi-Fi環境を実現。また年度内に学内及び学外への通信基盤を超高速回線としますので、リアルタイム授業の配信がよりスムーズとなり、自宅で快適に授業が受けられるようになり、さらに、より深いコミュニケーションが可能な、一歩進んだオンライン授業の展開を後押しします。セキュリティ面も大きく強化した新たな通信環境は、コロナ収束以降の授業や研究においても、大きく活用される新たなインフラとなるものです。



KAIT工房では陶芸などの作品作りも行えます



ガイドラインに沿って、部活動も行われています

入構時の検温・体調確認、飛沫対策やソーシャル・ディスタンスの確保など、学内での感染防止対策を徹底しています。学生には体調不良時は登校しない事を周知していますが、入構後は、先ず「検温・体調確認ステーション」を必ず通過する仕組みとしており、そこで体調不良が見られた場合は、屋外の健康管理室（分室）で看護師による体調確認を行います。体調確認において、医療機関での受診が必要な場合には、状況により同窓会寄贈の専用車両にて病院まで搬送する体制も整えております。

学内の感染症対策について

対面授業の増加に対応させた感染対策に取り組んでいます。昨年度は減便されていた急行バスを、車内混雑を緩和するため、平常授業時と同じダイヤでの運行をバス会社に要請しました。その結果、現在、急行バスは通常ダイヤで運行されていますので、一般路線バスに比較して車内はゆとりのある状況となっています。また、自家用車通学については、昨年度に引き続き学生駐車場を1日単位で無料で利用できるようにしています。

学内施設については、感染防止対策のため一部制限を課していますが、ほぼ平常時同様に活用できます。現在、図書館、KAIT工房、グラウンド、トレーニングジムなどの施設は利用可能です。

学内で学習に取り組みたい学生に対しては、Wi-Fiネットワーク環境を整備した教室を自習室として開放しています。

課外活動に関しては、活動の必要性、感染防止対策、活動計画書などによる審査の上、一部の団体の活動を認めています。幸い本学では発生しておりませんが、各地の大学で課外活動によるクラスターが発生していますので、慎重に対応しています。



広い空間で自習ができる図書館



指定の教室ではオンライン授業が受けられます



学生証で入構を記録した後、検温を行います

また、キャンパス内では教室はもとより、ロビーや学生食堂の各種施設、移動通路に関してもアルコール類、ビニール、アクリル板、誘導掲示を活用した感染防止対策を実施し、教室内では



間隔を空けるため、着席可能な席にシールが貼ってあります。

約20分で空気が入れ替わる換気システムと、窓やドアの開放を併用して換気に努めています。



食堂ではアクリル板を設置。席の間隔も空けます。

父母説明会(オンデマンド)のご案内

「父母説明会」でご案内する全体説明の内容を本学ホームページ「保護者の皆様」より音声解説付きで配信しております。

新型コロナウイルス感染症対策の他、学生生活、授業関連、キャリア就職についての取り組みをご確認いただけます。



「保護者の皆様」

保護者の皆さまへ

学生の登校状況などに不安のある保護者の皆さまにおかれましては、保護者ポータルサイトで学生の入構状況が確認できますので、ぜひご活用ください。ポータルサイトでの確認方法については4月末に郵送で送付していますので、そちらをご確認ください。

昨年度より学生・保護者の皆さまのご理解とご協力のおかげで、本学ではクラスター等が発生することなく、感染防止に努め、安全な環境を継続できました。この点において、改めて深く御礼を申し上げます。今後とも新たな生活習慣、新たな学びの環境のもと、継続的なご協力をお願い申し上げます。

昨年度からのコロナ禍での取り組みについては、本誌195号にて詳しく掲載しております。Webサイトでバックナンバーを閲覧いただけます。



広報誌「KAIT」195号

感染対策のために改めて心掛けたいポイント

～健康管理室より～

不織布マスクの使用をお願いします

ウレタン製より不織布製の方が、感染予防効果が高いことが示されています。特に人の集まる場所では不織布マスクを使用して感染予防を心掛けてください。

食中／食後の会話に気をつけましょう

学生食堂など食事の際にマスクを外したまま会話をしている場面が散見されます。食事後に会話をする時はマスクを着用しましょう。

規則的な生活を心掛けましょう

睡眠不足や乱れた食生活は免疫力の低下を招く原因となります。朝食をしっかりと、規則的な生活を心掛けましょう。

欠席後の登校は自己判断で再開せず「健康観察記録表」にて状態を確認

体調不良で欠席をした場合、回復具合を自己判断せず、大学が配布している(HPにて掲載)「健康観察記録表」で状態を確認してください。尚、欠席連絡をいただいた方については、健康管理室より「健康観察記録のお願い」のメールをお送りします。登校の目安を記載していますので、合わせて確認してから登校してください。

消毒／手洗い・うがい／マスク着用の習慣化を

感染防止のためにこれまで行ってきた基本的な対策を大切に、変わらぬ習慣として継続していきましょう。

保護者の方はお子様とのコミュニケーションを大切に

お子様の健康状態や精神面の変化に気付けるよう、離れて暮らしていても日々のコミュニケーションを大切にしてください。

体調に不安がある場合は気軽に健康管理室まで

極度の体調不良ではないが、登校してもいいのか不安な場合は気軽に健康管理室までご相談ください。

(健康管理室看護師:吉川 初江)

コロナ禍で心の健康を保つために

～学生相談室より～

オンライン授業の開始に伴い、一人でパソコンに向かう時間が増え、友人や教員と会って話す機会が減少しています。コロナ禍によりメンタルに不安を抱える学生が特に増えている状況はありませんが、周囲の気付きが遅れ、悩みが深刻化してしまうケースは見られます。学生相談室には本人はもちろん、友人・教員・保護者の方など、周囲の人からの勧めを受けて相談に来る人も少なくありません。たとえばやる気が出ない、集中できないなど、悩みは人それぞれで、その悩みに大小はありません。学生の皆さんは「こんな悩みで相談してもいいのかな」と思わず、気軽に学生相談室を利用してください。もちろん相談の秘密は遵守します。誰かと話をするだけでも、日々の悩みを軽くできるはずです。

また保護者の皆さまには、お子様との定期的なコミュニケーションをお願いします。自分を気にかけてくれる人がいる、ということが学生の心の支えになることもあります。もちろん学生相談室では、保護者の皆さまからの相談にも対応しています。

<メンタルヘルスの健康を保つために>

- 生活リズムを整えて十分な睡眠と適度な運動を心掛けましょう。外で日の光を浴びることも大切です。
- SNSやネットを活用して友人や両親とコミュニケーションを図りましょう。
- 電話やテレビ電話での会話は文字でのコミュニケーションより効果的です。
- 保護者の皆さまはお子様への積極的なコミュニケーションを心掛けてください。

(カウンセラー/臨床心理士/公認心理師:梅村 香織)

ゆるカフェやっています

学生相談室では、月曜日の昼休みにオンラインでお喋りなどを楽しめる「ゆるカフェ: オンライン実施」を開いています。時間は30分ほどで、最初は会話を聞いているだけでも大丈夫です。気軽な交流の場として、趣味の話などを楽しめます。興味のある学生の方は学生相談室までメールでお問い合わせください。

連絡先:sodan@kait.jp

無線通信技術で社会をセンシングする

情報学部 情報工学科「IoTシステム研究室」
川喜田 佑介 准教授 Yuusuke Kawakita

社会実装を見据えた、RFIDの機能拡張

交通系ICカードや衣料品のセルフレジなど、私たちの生活でも目にする機会が増えてきたRFIDシステム。川喜田佑介准教授は、無線通信によってRFタグのデータを非接触で読み書きするRFIDの技術を拡張し、さまざまな場面での実用を目指した研究に取り組んでいます。なかでも注力するのが、RFIDにセンシング機能を付与し、バッテリーレス・ワイヤレス動作するセンサータグを活用した、構造物や機械の同期センシングです。「トンネルや橋梁など、社会インフラの老朽化とそれに伴う維持管理の負荷増大が社会課題となっています。RFIDを応用した構造物モニタリングは、その課題解消を期待できる技術のひとつ。他にもRFIDをベースとした多様な実用手段を模索していますが、私の研究は、産官学と連携しながら、あくまで実用を見据えたものが中心です。社会実装を前提とすると制約も生じますが、産業から離れすぎない“使われる技術”を重視しています」。

自分自身の力を、社会で形式的に説明できる人に

RFIDに関する研究に加え、電池駆動デバイスを電力供給源とみなし、複数のデバイスで相互に計画的な協調給電を行う「ポリシーアウェアDC/パワーネットワーキング」や、その電力フロー制御を行う「バーチャルグリッドハブ」の開発にも取り組む川喜田准教授。学生時代に“日本のインターネットの父”と呼ばれる村井純氏に師事した経歴を持つ川喜田准教授が、現在、学生に抱いている期待とは何でしょうか。

「まずは『体系的な知識・スキル・経験』という3点で、自身を形式的に説明できる力を習得して欲しい、と伝えています。そのために資格取得等だけでなく、学外コンテストへ積極的に参加するような姿勢が重要。学生が1段上のレベルへと進んでいけるよう、粘り強くその背中を後押しし続ける存在でありたいと思います」。

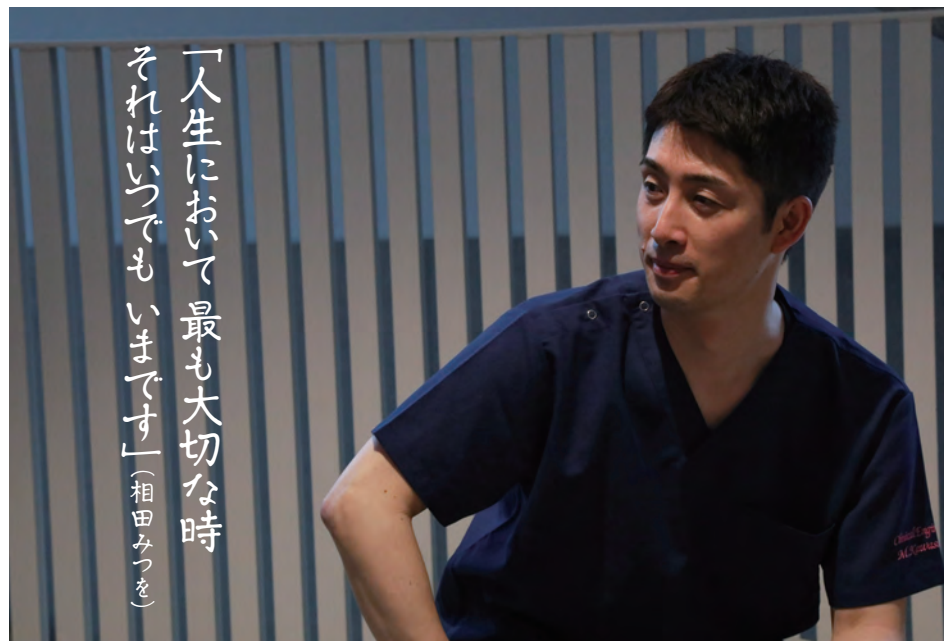


自我作古
(でありたい)

KAIT Researchers File

研究者として 教育者として

研究者として幾多の課題に取り組みながら、教育者として学生の成長を支える。本学の教員たちの姿をシリーズでご紹介します。



「人生において最も大切な時
それはいつでもいまです」(相田みつを)

臨床工学を科学する

健康医療科学部 臨床工学科
「臨床工学医療情報研究室」

川崎 路浩 助教 Michihiro Kawasaki

臨床工学技士の仕事を 情報技術で顕在化する

個人の技術や経験によって業務に違いが生じることが恒常的になっていた臨床工学技士の世界。そこで情報技術を活用し、臨床工学技士の医療タスクの“見える化”に取り組むのが、川崎路浩助教の研究です。自身も臨床工学技士として医療現場で勤務していた川崎助

教。後進の教育に悩んだことが、この研究のきっかけになったといいます。研究ではモーションキャプチャ等を活用し、業務を行う際の臨床工学技士の動きを数値化。「作業に個人差が生じる理由を明らかにし、効率的な教育方法やマニュアルの作成につなげ、医療現場への貢献を果たしたい」と語ります。

また「医療現場でシステムの開発なども手掛けていた」という川崎助教は、ビッグデータやAIを活用した患者の状況予測モデルの構築、自然災害時の医療情報共有Webサービス開発など、医療分野における情報技術の活用を模索します。「たとえば臨床工学技士は手術中、常に膨大な情報を獲得しながら人工心肺の操作をしています。これが“職人技”と形容される理由のひとつ。すべての仕事を代替するのは叶わなくても、情報技術による負荷軽減は、必ず安全性の向上や技術支援へとつながるはずです」。

医療現場の問題点に 自ら気付ける力を

医療現場で感じた疑問から、現在の研究へと歩みを進めた川崎助教。臨床工学技士の経験が研究においても強みとして発揮されています。「学生には医療現場に目を向けることの大切さを伝え、現場から課題を見出す力を教えていきたい。また臨床工学分野に加え、+αの力として情報分野の技術を身につけてもらいたいですね」。IoTによる進化が続く医療分野において、今後、情報技術への理解は欠かせない素養となるもの。川崎助教の下で培われる力は、きっと学生を次代の臨床工学技士へと導くものとなるでしょう。

フレッシュャーズ・ガイダンスを実施

本年度は4月1日に学科別での入学式を執り行い、4月9日までの間、新入生を対象としたオリエンテーションおよびフレッシュャーズ・ガイダンス(FG)を行いました。FGでは、「友人を作ること」、「時間割を作ること」を大きな目的としていますが、本年度は対面式とオンライン式のハイブリッドにより講義が進められることから、スムーズにスタートできるよう、履修登録やPCの設定に重点を置いた内容としました。教員およびサポートとして手伝ってくれた先輩と一緒に、熱心に講義の準備に取り組んでいました。

4月8日にはキャンパスツアーを行いました。教員や先輩の案内で、1時間ほど学内各所を回りました。当日は天気もよく、友人作りの時間もできたかと思います。

コロナ禍による困難な時期はまだ続きますが、4年間で様々なことを経験し、日本の産業を支える人材へと成長してくれることを願っています。

(文責:機械工学科 准教授 林 直樹)



専門教育講師をお迎えしました

吉川 紀夫 講師

企業経験を活かし、機械技術者としてモノづくりに必要な知識を伝えていきたいと思います。機械力学分野、実習・実験、設計・製図分野を担当しています。

〔略歴〕

(株)東芝研究開発センターから東芝デバイス&ストレージ(株)の磁気ディスク装置(HDD)先行技術開発部で、メカトロニクス製品の研究開発、特にHDDメカ開発・設計に従事。東京理科大学工学部機械工学科卒・大学院工学研究科機械工学専攻修了。工学修士。



熊谷 俊司 講師

機械工学科の専門科目を担当します。「温かい気持ちで前向きに元氣よく」をモットーとして、皆さんのやる気スイッチを押し続けることを目標に邁進します。宜しくお願い致します。

〔略歴〕

高等学校教諭、株式会社ミツバにて「車載モーターの整流技術・材料技術の研究開発」、国立研究開発法人物質・材料研究機構(出向)にて「薄膜技術の実応用化研究」に従事。群馬大学大学院工学研究科機械工学専攻修了(修士)。



学科入学式・オリエンテーションの実施

4月1日、学科単位で入学式が行われました。2年ぶりに対面での入学式が行われ、教職員一同とても喜んでおられます。入学式では、緊張した様子で、録画ではありますが学長の祝辞を聴き、学科長の祝辞、その後、教職員の紹介、今後のスケジュールについての説明と無事に終了することができました。

4月5日には、オリエンテーションが行われ、オンライン授業の受け方、科目履修の登録方法の説明を実施。その後、全教員と先輩学生による履修相談を実施しました。昨年度は、対面での履修相談ができず、伝わりにくい事もあったため、今年度は、対面での履修相談ができるようになり、履修計画もスムーズにできたと思います。新入生は、教員や先輩学生に質問しながら履修計画に熱心に取り組んでいました。

4月8日、9日の両日は、パソコンのセットアップを実施しました。大学指定PCと自身の所有PCに分かれて授業で使用するソフトのインストール、ネットワークの接続チェックを実施。大きなトラブルも無く終了しました。最終日の9日は、オンライン授業で必須であるZoomとManabaコースの使い方、模擬よる質問の受け方の実演を行いました。PCのセットアップと履修相談がスムーズに行えたこともあり、8日にはほとんどの学生が履修登録を終えることができました。我々教職員一同、新入生が学業に励み、活躍できるようサポートしていきたいと思います。

(文責:電気電子情報工学科 教授 工藤 嗣友)



専門教育講師をお迎えしました

酒井 清秀 講師

1985年電気通信大学大学院電気通信学研究科修了。同年三菱電機(株)入社。光ファイバ通信用LD、PD、電界吸収型光変調器付DFB-LD、光中継増幅型海底ケーブル用光部品、レーザ光源TVなどの研究開発を経て、2014年三菱電機エンジニアリング(株)に転籍。人工衛星の電気設計部門長、開発統括で定年。現在は磁界共鳴型ワイヤレス電力伝送技術を研究。博士(工学)。



端山 喜紀 講師

2021年3月神奈川県立工科大学大学院工学研究科電気電子工学専攻博士後期課程修了(博士(工学))。同工学部電気電子情報工学科中津原研究室の出身であり、次世代の高速・大容量光通信や、高性能な光学式センサを実現できる光集積回路の研究を専門とする。近年では、微小な領域に光を閉じ込めることができるスロット導波路を用いた光機能デバイスの研究を行っている。



新入生向けオリエンテーションを実施

今年度の入学式は学科ごとに分かれて、教室で縮小されての開催となり、学長の祝辞もビデオ配信となりました。入学式後はオリエンテーション期間ですが、例年では、新入生向けに1泊2日の学科別オリエンテーションを行っていましたが、今年は自粛です。そのような中でも、1年生がお互いをより知ってもらおうと学科の2,3年生が主体となって、学生主催のオリエンテーションが企画、実施されました。オンラインでの新入生歓迎会など、様々な内容で行われました。また、昨年度は実施できなかった2年生向けの全体会も、合わせて開催となりました。入学式を体験できなかった2年生も良い体験になったのではないのでしょうか？2,3年生の企画で、今年は比較的スムーズに大学生活がスタートしたようです。



対面授業もスタートしています

今年度、1年生は週に2回ほど入構して対面式の講義を受講しています。応用化学科の特徴的な講義である「卒業研究体験実験」では、研究室での研究の体験が可能な体験型講義になっています。3~4人でグループを作り、各グループで興味のある研究室で実験を行います。研究テーマも各研究室の研究内容に沿って好みのものを選択しています。今は実験内容を決定している時期です。この広報誌KAITが発行される頃には、いろいろな実験を行っていると思います。実験(研究)は目的が重要です。「なぜ、どうして、その研究をするのか?」といった動機づけが必要です。今年は「どうして、その実験を行うのか?どのように役に立つのか?」といった「最初にその実験をやりたい!」と心の中で感じたことを深めていくFIDS(Feel, Imagine, Do, and Share)のメソッドも一部に取り入れました。どのような実験成果を皆とシェアできるのか今から楽しみです。

開発プロジェクト車両の試走会を開催

自動車システム開発工学科の3年次には「自動車開発プロジェクト」の講義があり、学生は希望する研究室に一年間所属し、一台の乗り物を製作します。この製作過程を通してコンセプト設計、詳細設計、試作、実験等、車を開発する一連の流れを体験します。開発プロジェクトの締めくくりとして、4月27日「2020年度開発プロジェクト車両」の試走会を開催しました。試走会では、開発車両の紹介も行いました。今回は、「知能モビリティ研究室」「モータースポーツ工学研究室」「電動システム研究室」「ソーラービークル工学研究室」「高性能コンピューティング研究室」「車両運動・制御研究室」の順で、それぞれの研究室で工夫をこらした計6台の車両が紹介されました。

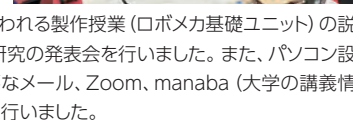
(文責:自動車システム開発工学科教授 クライソントロンナムチャイ)



フレッシューズ・ガイダンスを実施

ロボット・メカトロニクス学科は、42名の新生を迎えました。新生が大学生活にスムーズに入れるよう、4月8日、9日に大学内でフレッシューズ・ガイダンス (FG) を実施しました。新型コロナウイルス感染症対策のため、例年であれば実施している昼食懇談会は行わず、2日間とも午後半日での実施でした。ガイダンス初日は、学科教員およびアドバイザー教員の紹介、クラス懇談会、学生相談室紹介、キャンパスツアーを行いました。キャンパスツアーでは、上級生が学内全体を案内するとともに、先進技術研究所での、本学科教員が開発したロボットの見学を行いました。2日目は、1年次から行われる製作授業 (ロボメカ基礎ユニット) の説明、在学生によるプロジェクト研究の発表会を行いました。また、パソコン設定では、オンライン講義に必要なメール、Zoom、manaba (大学の講義情報のページ) の使い方の説明を行いました。

大学に来る機会がまだ少ない現状において、このFGで大学の雰囲気を感じるとともに少しでも知り合いができたのではないかと思います。



(文責:ロボット・メカトロニクス学科教授 河原崎 徳之)

プロジェクト研究実践報告会

課外科目である「プロジェクト研究実践」の報告会を4月9日のフレッシューズガイダンスにて行いました。展示室プロジェクトの5件と「ITを活用した教育シンポジウム2020」にて発表した学生の1件、計6件の発表がありました。E3号館1階にオープンキャンパスや来客時に公開するロボット展示室があります。展示室プロジェクトは、ユニット授業での取り組みやユニットで学んだロボットを応用した作品を展示室にて紹介することを目的として活動しているグループです。ゴルフ練習場などで球拾いをするゴルフロボット、ロボット本体に差し込んだ走行指示を示すブロックの通りに走行するプログラミングロボット、赤外線に反応する撃つことができるアニメから飛び出してきたかのような戦闘型ロボット、ライトレースをしながら砲台で前方にある障害物を払うことができる戦車型ロボット、3Dプリンタを使用して小型にすることに拘ったライトレースロボットが発表されました。ITシンポジウムで「屋外清掃ロボットの製作およびその基礎的制御」という題目で発表した学生は落ち葉を掃除するロボットを製作し、そのデモを動画にて発表しました。コロナ禍で作業時間も限られているにも関わらず、どのロボットもしっかりと動作し、発表できていることに興味しました。次回の発表も期待したいです。

(文責:ロボット・メカトロニクス学科准教授 吉留 忠史)



ゴルフロボット



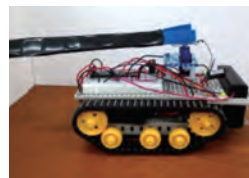
戦闘型ロボット



小型ロボット



プログラミングロボット



戦車型ロボット



落ち葉清掃ロボット

オリエンテーションとエレクトロニクス入門講座を実施

ホームエレクトロニクス開発学科は、4月1日、2日、5日、6日、7日に、オリエンテーションとエレクトロニクス入門講座を合わせて実施しました。エレクトロニクス入門講座は入学前教育として実施してきた内容で今年はオリエンテーションから繋がるように実施されました。昨年度はコロナ禍により実施できなかった「友人関係構築」の場が提供できるようになったことは非常に大きいことだと思います。現在の2年生では実施できずに残念です。とはいえ、1年生にとっては過密スケジュールであったことは否めません。忙しい状況の中での経験がどこまで彼らに成長を促せたのかは今後の学生生活で確認されることと思います。

エレクトロニクス入門講座中に山崎准教授が担当したクリップモーターがABEMAニュース (4月17日 (土) 13時20分～17時50分の間) で紹介されました。授業内容がネットニュースに取り上げられたのは大変素晴らしいことだと思います。様々な年代の人々から関心が寄せられれば本学科もより大きく成長できると考えています。

(文責:ホームエレクトロニクス開発学科教授 三柄 貴行)



フレッシューズ・ガイダンスを実施しました

ホームエレクトロニクス開発学科は、4月8日、9日にフレッシューズ・ガイダンス (FG) を実施しました。新生はエレクトロニクス入門講座からの連続的な実施で本当に忙しいスケジュールだったと思いますが、楽しみながら学べる内容だったため満足度は高かったように思います。特に8日は金井教授によるLEGO®カーの課題は坂道 (斜面) を利用して走らせ、所定の位置に停車させるというものので本学のKAITアリーナで実施されました。本課題は限られた物品 (センサやモータを使わず、LEGO®部品のみ) を使用するため、大学生向けの課題となっており、学生たちは試行錯誤を繰り返しながら取り組んでいました。PDCAサイクルを自然に体験していたように思います。

9日は三柄による家電分解の課題が実施されました。家電を分解してから部品のスケッチ、製造年が1年異なるIHクッキングヒーター (2018年度製と2019年度製) 内部の比較が実施されました。IHクッキングヒーターの内部の変遷は1年の差で大きく進化していることに学生たちも驚いていました。家電製品業界、エンジニアの仕事というものの厳しさと楽しさの両面を垣間見ることができたと思います。

最終日の時間では参加学生からの感想コメントを発表する時間があり、オリエンテーションからFGまで良い経験になったという感想が多く得られ、良い取り組みが実施できたと感じています。

(文責:ホームエレクトロニクス開発学科教授 三柄 貴行)



フレッシュャーズ・ガイダンスを実施

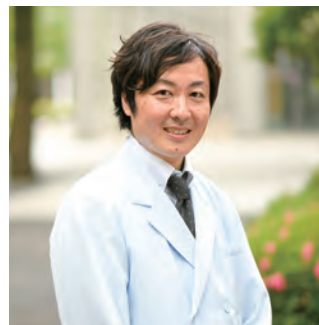
4月8日に、87名の新生を迎えて学科教職員の紹介や応用バイオ科学科について学ぶフレッシュャーズ・ガイダンスを行いました。お昼には「キャンパスラリー」を開催。キャンパスラリーは応用バイオ科学科の施設を知ってもらうための恒例行事で、3年生の先輩たちが新生を案内しました。チェックポイントを早く回れたグループには学びに役立つ様々なグッズが贈呈されました。午後は各クラスに分かれ、新生の自己紹介や履修相談が行われました。履修相談には教員だけでなく、3年生も相談の対応を行いました。コロナ禍はまだ続きますが、その制限の中でも多くのことを学び、成長してほしいと願っています。（文責:応用バイオ科学科准教授 井上 英樹）



専門教育講師をお迎えしました

和田 善成 講師

千葉工業大学大学院工学研究科工学専攻博士後期課程修了。同大学および日本大学生産工学部の非常勤講師として化学・生物に関連する実験・講義を担当する傍ら研究員として結晶化を利用した材料製造・環境保全技術の開発にも携わる。2019年度より非常勤講師として神奈川工科大学の教育に従事する。



依田 ひろみ 講師

2018年3月神奈川工科大学大学院博士後期課程工学研究科応用化学・バイオサイエンス専攻博士後期課程満期退学、2021年3月博士（工学）取得。実験補助員であった期間を合わせ、研究室に延べ10年間在籍。学生が自らバイオサイエンスのおもしろさを追求していけるよう、基礎科目の授業に注力していきたい。



フレッシュャーズ・ガイダンス、ウェルカムイベントを実施

昨年度は実施することが叶わなかった入学式ならびにフレッシュャーズガイダンスを、今年は無事開催することができました。会食パーティを開いていた時代もありましたが、一緒にお弁当ということも叶わず、全体的に黙々とした会となりました。それでも、徐々に打ち解けて新しい友人が出来たり、懇親ゲームに参加したりなど、大学生生活の楽しいスタートを切ってくれたのではないのでしょうか。

例年通り、初日は全体オリエンテーションの後、クラス単位で懇談会、その後研究室単位で集まって履修のサポートを受けました。情報工学科では学生約10名に対して1名の教員が履修アドバイザとして手厚く面倒を見ます。さらに、1名ずつ先輩学生が、学生目線でのアドバイスを行えるような仕組みを取り入れています。2日目は午前中に履修相談会を催し（今年はなんとこの日がシステムの登録締切日）、午後からはピアサポート（KAITPIa）の先輩学生によるウェルカムイベントで盛り上がりしました。

実はこれに先立ち、3月末に新2年生に向けたウェルカムイベントの開催もありました。昨年度は新生が9月までキャンパスに入構できず、オンライン授業のみであったことから、新2年生たちに対して新3年生の先輩方が企画運営した懇親イベントです。すでに入学してから1年が経過していたので、ゲームなどの懇親イベントだけではなく、2年次の必修実験科目のアドバイスなども交えて、楽しく？知的に？親交を深めてもらうことができたようです。おかげでその後、昨年度訪問がゼロだったKAITPIaにも新2年生が加入してくれました。きっと、一年後に、今度は後輩を迎え入れる立場でいろいろなサポートをしてくれる先輩として成長した姿が見られることでしょう。我々教員も見守っていききたいと思います。（文責:情報工学科准教授 須藤 康裕）



「国際ワークショップIWAIT2021」にて学生3名が口頭発表

鹿児島大学が主催し、電子情報通信学会画像工学研究会が協催となる国際ワークショップIWAIT2021が1月5、6日にオンラインで開催され、本学科の研究室から濱村達哉さん、名古屋真実さん、鈴木拓海さんの3名（いずれも情報工学専攻2年2021年3月修了）が口頭発表を行いました。修士最後の学会発表ということで3名とも桜島を臨む会場での発表を心待ちにしていたのですが、残念ながらコロナ禍の影響でリモート開催となってしまいました。3件の発表のうち、濱村さん、名古屋さんの論文はProceedings of SPIEに採録されています。また、名古屋さんは国際ワークショップSISA2018で論文賞を取った論文を下敷きに電子情報通信学会のジャーナル論文を発表するなどの業績が評価され、卒業の際に永井工学賞を受賞しています。（文責:情報工学科教授 辻 裕之）

専門教育講師をお迎えしました

岡崎 秀俊 講師

C言語基礎ユニット、情報工学基礎ユニット等を担当します。よろしくお願いいたします。初めてのプログラミングは慣れるまで大変かもしれませんが焦らずにじっくり取り組みましょう。[略歴] 画像処理装置のハード・ソフトの開発に従事。大島商船高等専門学校・電子機械工学科で15年間勤務。東京農工大学生物システム応用科学研究科博士後期課程修了。博士（工学）。



「非接触入力方式の研究」 岡本学研究室

「まさかこんな時代が来るとは」コロナ禍のいま、とてもよく使われる言葉です。これまで当たり前でできていたことが、新型コロナウイルス感染拡大防止に向けて、あたり前にできなくなってきました。たとえば、銀行のATMで暗証番号を指で入れる、こんなことすら「手指の接触」を考えると懸念される場合があります。消毒用アルコールを置けば感染は防止できますが、アルコールに濡れた指はタッチパネルに反応しにくい新たな問題が発生します。そこでN科岡本学研究室では様々なスイッチを用いた「非接触」な入力方式の研究を行っています。もっとも簡単なのは「足による入力方式」です。消毒液も手で押し出すのではなく、足で踏むタイプが登場していますが、暗証番号も足で入力できるとウイルス感染拡大防止に貢献できます。さらにこれら技術は、手指の運動が難しい人

に向けた情報
バリアフリー
方式としても
展開が期待で
きます。

(文責:情報ネット
ワーク・コミュニ
ケーション学科教
授 岡本 学)



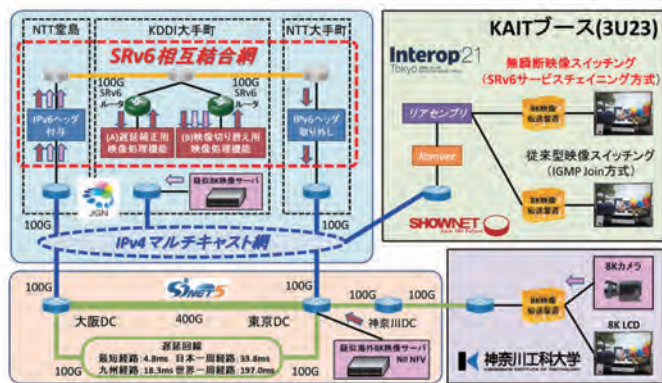
国内最大級のインターネット技術のイベント「Interop Tokyo 2021」に 情報ネットワーク・コミュニケーション学科が出展

4月14日から16日、幕張メッセにて開催された国内最大級のインターネット技術のイベント「Interop Tokyo 2021」がリアル＆オンラインで開催されました。本展示会は、世界4ヶ国で開催されており、日本でも1994年以来、毎年開催され、今年はコロナ禍の中、3万7千名の来場と2万5千名のライブ視聴がありました。

本学は、2015年から開催中止となった昨年を除き、毎年大学独自のブースを設け、共同研究先の関係会社のご協力の基で、公開実験の動態展示をしております。今年は、情報ネットワーク・コミュニケーション学科の丸山研究室、瀬林研究室が共同で神奈川工科大学のブースを出展し、共同研究先のミハル通信株式会社と古河ネットワークソリューション株式会社様と共同で、以下の2つの実験デモ展示を行いました。

これらの実験は、情報通信研究機構(NICT)、国立情報学研究所(NII)の研究開発用ネットワークテストベッドである「JGN」と国立情報学研究所(NII)「SINET5」を使用し、大阪、東京間の200Gbpsの回線を幕張の会場まで引き込むことで実現しました。200Gbpsの回線の使用した実験デモは、本展示会では神奈川工科大学が唯一でした。また、この100Gbps超のIPマルチキャストルーティングには、共同研究

先であるエヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)様のソフトウェアルータ「Kamuee」を使用しました。
(文責:情報ネットワーク・コミュニケーション学科教授 瀬林 克啓)



2020年日本音響学会秋季研究発表会で 学生優秀発表賞を受賞

昨年度発行のKAIT195月号では、学部4年生7名が日本音響学会の秋季研究発表会で発表したことをお伝えしましたが、発表者の三春知史さんが、2021年日本音響学会春季研究発表会において学生優秀発表賞を受けました。音響学会の参加者は毎回1000人程度と非常に大きな学会で、学生発表も多くとても競争率の高い賞ですが、この度、本研究室から2度目の受賞を果たしました。その結果、当該学生が2020年度学位授与式において「最優秀ハイアクティビティ賞」を受賞しました三春さんの研究は「スポーツと音」というテーマで、「音」が運動中の動きに与える影響を画像解析により、明らかにするという応用分野の研究です。共同研究者の春日教授(画像専門)とのコラボレーションの賜物です。

音響学会では特に基礎研究ではなかなか受賞が難しいなど、各人の研究テーマや分野のタイミングなど様々な要因が受賞には影響してきます。受賞できなくても頑張った学生たちも沢山います。オーディエンスも100人を超えている中で難しい質問にも自分の言葉で回答するなど、学生は大きな成長を果たしたように感じております。そしてそのような先輩たちの活躍を見ていたセミナー生(新卒研究生)たちも、刺激と敬意を抱いているようでした。

(文責:情報メディア学科准教授 上田 麻理)



受賞した三春さん

上田研究室の皆さん

専門教育講師をお迎えしました

情報メディア学科では、お二人の専門教育講師をお迎えしました。専門教育講師は教育開発センターの所属ですが、本学科と密に連携を取って学科の学生教育に携わっていただいております。担当授業科目は、情報リテラシー、情報メディア基盤ユニット、情報メディア基礎ユニット、プログラミング等です。

金森 克洋 講師

1986年早稲田大学理工学研究科修了。2021年3月まで大手電機メーカーで入画像機器間のカラーマネジメント(色再現)技術やUV、IR波長の光、偏光状態など光の性質を使う人センシング・メディカル・アグリ分野の画像処理を研究。高校～大学初年度・一般社会人の数学教育に興味あり。数学検定1級(2次:数理技能)。博士(工学)。



津布久 直樹 講師

2012年に神奈川工科大学大学院情報工学専攻博士前期課程を修了。岐阜県のITベンチャー企業にて、インタラクティブ系のアプリケーション開発や、IoT技術を活用したハードウェアの試作、ファブリケーション施設での工作機械操作の指導、学生向けワークショップや社会人向け研修会の運営などに従事。趣味はプログラミングとCG。



フレッシューズ・ガイダンスを実施

今年度、看護学科では78名の新生を迎え、4月8日に新生を対象としたフレッシューズ・ガイダンスを実施いたしました。フレッシューズガイダンスは、学生生活が順調にスタートできるように、講義・実習・日常生活に関する情報提供を行うとともに、クラスメンバーや先輩、教員との親睦を図ることを目的として実施しております。例年、2日間のプログラムを組んで実施しておりましたが、新型コロナウイルスの流行により昨年度はオンライン実施となりました。今年度は感染対策を徹底し、プログラムを最小限にして、1日の対面開催といたしました。残念ながら例年のような先輩とのゲームやレクリエーション、ランチを囲んだ交流などはできませんでしたが、先輩の案内によるキャンパスツアー、体験談などにより学生生活のスタートを実感する1日となりました。

先輩の体験談では、実習での様子、学修に関すること、キャンパスライフが生き生きと語られました。特に実習の大変さと充実感、その実習に至るまでの基礎学習の大切さについては熱をもって語られ、聞き入る1年生の目は真剣そのものでした。学修体験の中ではぐくまれる仲間との信頼関係についても、思いは十分に伝わったようです。

幸い天気も良く、広いキャンパス内を歩くには絶好な日和となりました。緑の芝生の中央緑地公園に、ガラス張りのKAIT工房、図書館、KAITアリーナ、KAITスタジアムなど、大学内のさまざまな施設にも、大学生になった喜びを感じたのではないのでしょうか。

新型コロナウイルスは収まる気配がありません。看護学科の学びには講義だけでなく病院や施設などでの臨地実習が必須となります。1年生のうちから徹底した感染対策を学び、学修することが求められますが、学生の凛とした表情からは、その決意がうかがえました。今後の学生たちの成長を期待したいと思います。

(文責:看護学科教授 柴田 真紀)



管理栄養学科 8期生の卒業式

8期生の卒業式は、新型コロナウイルス感染防止の為に厳戒態勢の中、卒業生と教員のみで挙行されました。卒業証書を拝受した卒業生の皆さんの晴れやかな笑顔が印象的でした。

皆さんの益々のご活躍を期待します！

(文責:管理栄養学科准教授 澤井 明香)



新生入学式

フレッシューズ・ガイダンス (FG) を実施

4月2日、厳かな雰囲気で行われました。その後の教務ガイダンスでは授業の受講や学生生活、PCの設定に関する説明、FGでは各先生方、学生支援センターの先生方、そして新生の皆さんの自己紹介がありました。新生の皆さんには自分の番までは緊張の時間でしたが、お互いを知る良い機会になったと思います。また、学科内ツアーが計画され、先輩達がこれから使用する教室を案内して、さらに交流の場も設けられました。これからの学生生活にお役にください。

(文責:管理栄養学科准教授 澤井 明香)



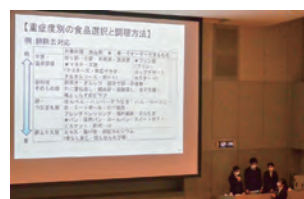
臨床栄養臨地実習報告会

4月17日、メディアホールにて臨床栄養学臨地実習報告会が開催されました。2020年度の臨地実習は、新型コロナウイルスの影響で実習の中止や実習期間の短縮となる病院がいくつか発生し、代替策として学内での臨地実習も行いました。

報告の内容は、実習先の施設概要から始まり、実習課題の背景と目的、実習の内容、そのまとめと考察という順でしたが、どの班も既定の時間内に要領よくまとめられていました。実習の課題は、チーム医療の現状や、栄養指導、病院の厨房作業の工夫点をまとめたものなど様々でしたが、それぞれの実習病院の特徴をよく捉え、内容的にも充実したものでした。

臨地実習の目的は、実習を通じて、大学で学習した知識や技術の統合を図ることですが、今回の実習を通じて学生はその意味をようやく理解した様子で、管理栄養士となるためには学習が不足していること、今後さらに勉学に励むことが必要であることを理解したようです。今回の実習にご協力とご指導を賜りました各実習病院の先生方に深謝致します。

(文責:管理栄養学科教授 菅野 丈夫)



「+α資格取得プロジェクト」発表会の開催

「令和2年度 +α資格取得プロジェクト」の発表会が令和3年3月29日にオンライン方式で行われました。報告者は新4年生で、前年度に実施した+αプロジェクトの内容についての報告となります。

今回はコロナ禍という事で、残念ながら「食品産業」と「スポーツ栄養」の2つの実施となりましたが、参加した学生の発表からは、それぞれの現場で得られた貴重な経験が伝わってきました。報告会には、プロジェクトでお世話になった企業の方も越えいただき、オンラインを通じて質疑応答時の補足説明をさせていただく場面も見られました。学生たちにとって、学外の方のお話を伺うことのできる良い機会になったと思います。

(文責:管理栄養学科教授 清瀬 千佳子)

臨床工学科フレッシューズ・ガイダンスを実施

7期生となる新入生42名を迎え、4月8日、臨床工学科フレッシューズ・ガイダンスが開催されました。一昨までは2日間での開催でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、1日のみの開催となりました。昨年は緊急事態宣言発令のため、実施できませんでした。初めに学科教職員の紹介の後、クラスミーティングとキャンパスツアーを行いました。クラスミーティングでは1人ずつ自己紹介を行いました。入学式からの数日間、あまり会話がなかった新入生も、お互い話しをするきっかけができた様子でした。午後は、臨床工学技士の業務内容と学科における学びに関するガイダンスがあり、4年間の学習のイメージをつかみました。続いてパソコン講習を行い、履修登録を行いました。ガイダンス終了時には、会話をしながら帰宅していく様子が見られました。朝の緊張した雰囲気から明るい和やかな雰囲気となり、有意義なガイダンスとなりました。

(文責:臨床工学科教授 松田 康広)



臨床工学科の新入生の皆さん



臨床工学科

新型コロナ禍での臨床実習

新型コロナウイルスの感染拡大は、今もそのスピードを必死で抑えこむ日々が続いています。昨年は1回目の緊急事態宣言が4月に出され、当初予定した5月連休明けからの臨床実習(以下、実習)を急遽9月以降へ延期をお願いしました。延期に対応できない実習先が複数ありましたが、なんとか新規に確保し全員が貴重な実習を終えることが出来ました。

臨床工学科では、昨年4月から実習履修者をはじめ全員に朝夕の検温、症状観察、行動履歴などを健康管理表として毎日記録することを徹底しています。医療人の卵がこのような経験をすることは、まさに実学と言えます。万が一感染し、そして治癒した場合でも嗅覚・味覚障害、食欲不振、呼吸苦などが長引くことはよく知られており、後遺症を抱えて実習期間を全うすることは極めて困難となります。また実習開始2週

間前からの行動履歴によっては、発症がなくても実習受け入れ不可とされる場合が多いため、実習開始1ヶ月前からは更に厳しい自粛、感染対策を学生に求めました。

昨年から感染対策を日々実践してきた今年の4年生は、5月から6月末までの間、新型コロナの脅威と戦いながら実習に励んでいる最中になります。大学近隣に居住する多くの学生は、密な公共交通機関を乗り継いで実習先に到着し、実技、見学、日報、課題を次々とこなして一日を終えます。ときには休日であっても急患への対応として実習時間が適応されることは珍しくありません。臨床実習は最も興味深い学びの場でもあります。気力、体力ともに大学生活最大の苦難に満ちた期間でもあります。

実習生への新型コロナワクチン接種は、実習先の医療機関の判断により受けることができますが(文科省・厚労省通知)、今のところ実習生に対しワクチン接種を行う実習先はなく、実習生は丸腰での戦いに臨んでいることになります。

「コロナ禍の臨床現場で学ぶ医療人の卵たちに声援を」宜しくお願い致します。

(文責:臨床工学科教授 山家 敏彦)

シリーズSDGs



学生組織「KAIT SDGs HUB」の発足

SDGsを推進する学生組織として「KAIT SDGs HUB」が、学生メンバー7名により発足しました。

これまで本学では、教職員を中心として教育・研究・地域貢献の分野で各々SDGsを推進しており、一定の成果をあげてきました。教育では、SDGsが提唱する以前から開講されていた「Stop the CO₂プロジェクト」を初めとして、講義や実習を伴うカリキュラムが展開されています。また学内外で展開されている研究活動は100件以上ありますが、SDGsと無関係な研究を探すことの方が困難なくらいです。さらに、SDGs未来都市である神奈川県と連携した地域貢献活動も行ってきました。

しかし、今までの活動だけでは不十分な部分もありました。まず、新型コロナウイルスの流行により、人と人が交流するような活動が大変やりにくくなっていることでした。例えば、SDGsに関するフィールドワークは全く実施できない状態です。

また、大学全体としてみると、SDGsに関する活動は行っているものの、その成果を十分に情報発信できていないことも歯がゆい問題でした。担当する教職員が個別に発表しているだけでは限界があり、協力者を集めることも困難でした。

これらを踏まえて、本学に学生が積極的にSDGsを推進する組織ができました。

「KAIT SDGs HUB」は、その活動を大学が積極的にサポートする「学生支援プロジェクト2021」の一環です。そのため、外部講師を招いて勉強会を開催することも、学内外のSDGs関連の有料の催し物に参加することも可能です。また写真は、KAIT SDGs HUBの発足ミーティングに参加したメンバーで、ZOOM画面のスクリーンショットです。(今後、KAIT SDGs HUBのメンバーは増員を計

画しています。)このように学内外の人と交流する際には、ネット経由の環境も存分に使うことができます。

この学生組織の最初の使命は、SDGs関連の活動に参加し、理解した内容を大学の広報誌やホームページなどを用いて学内外に情報発信することです。

学内の活動だけではなく、高校や企業、地域団体などでのSDGs関連活動を行う際には、「KAIT SDGs HUB」にお声をおかけください。学生がその活動に参加し、その価値を広報させていただきます。SDGsは「継続的」であることが主眼です。できることから無理なく進めていきましょう。

(神奈川県工科大学 SDGs WG 主査/工学部 電気電子情報工学科教授 小室 貴紀)



着任の挨拶

2021年度より本学に着任された先生方をご紹介します。

工学部 機械工学科 教授 照井 冬人

この度、機械工学科 航空宇宙コースに着任しました。研究室名は「宇宙制御工学研究室」で、人工衛星、小惑星探査機などの位置や姿勢を思い通りに動かす制御のやり方を研究する研究室です。本学に着任前は宇宙航空研究開発機構(JAXA)に居て、小惑星探査機「はやぶさ2」の航法誘導制御系の開発や探査機から送られてくる情報を確認して指令を送るような運用に関わっており、特に小惑星への2回のタッチダウンを担当していました。このような経験を活かした教育、研究を目指したいと思っていますので、よろしくお願いいたします。



【専門】宇宙工学、画像航法誘導制御工学、アストロダイナミクス

【担当授業科目】航空宇宙学概論I、飛行力学、航空宇宙プロジェクト、宇宙機システム工学、機械力学II、科学技術英語II

健康医療科学部 看護学科 教授 西田 幸典(在宅看護学領域)

本年4月より看護学科に着任いたしました西田幸典と申します。高齢社会を迎え、2040年をピークとした多死社会において、看護師などの医療従事者には、多様化した死生観を尊重した医療を提供することが求められています。私が専門とする在宅看護学は、ご自宅で療養生活を送る方々を看護の側面から支援する分野です。2020年度のCOVID-19の社会情勢と相まって、まさに今、この分野の重要性がクローズアップされています。本学周辺の地域医療に貢献できる看護師の育成を目指して邁進したいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。



【専門】在宅看護学、医事法学

【担当授業科目】地域保健医療看護論、在宅看護学概論、在宅看護活動論I・II、在宅看護学実習、社会福祉学、卒業研究II、看護統合実習、実践総合演習(OSCE)、看護学概論

健康医療科学部 看護学科 教授 濱邊 富美子(小児看護学)

この度、4月に看護学科に着任しました濱邊富美子と申します。専門は小児看護学です。小児看護学では子どもと家族の看護を教育・研究しています。私は大学病院や重症心身障害のある方々の入所施設で勤務しました。その経験を活かし、小児看護の知識・技術と、患者と家族の意見や気持ちに添った人権を尊重した看護を意識し、教育と研究をしていきたいと思っています。健康な子どもも健康障がいのある子どもも、その子らしく成長発達できるように、家族も含めたケアの実践を学生と一緒に追及していきたいと思っています。



【専門】小児看護学

【担当授業科目】小児看護学概論、小児看護活動論I、小児看護活動論II、実践総合演習、看護研究II、看護学概論(A科)、小児看護学実習I、小児看護学実習II、看護統合実習

基礎・教養教育センター 化学系列 教授 兒玉 健

本年4月より基礎・教養教育センターに着任致しました兒玉 健と申します。これまで、5角形と6角形からできた、いわゆる白黒サッカーボールと同じネットワーク構造を持つC60をはじめ、かご型炭素ケージ(フラーレン)に金属原子を内包した金属内包フラーレンの研究を行ってきました。担当する科目では、化学(科学)の世界の楽しさを、授業を通じて少しでも伝えられたらと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



【専門】物理化学

【担当授業科目】実感する科学I、実感する科学II、基礎化学I-a、基礎化学II-a、化学B、物理・化学ユニットプログラム

情報学部 情報メディア学科 准教授 酒井 雅裕

本年4月より情報メディア学科に就任をいたしました酒井雅裕と申します。大学教員の就任前はIT関係企業に在籍し、エンタテインメント系のサービス等を開発してきました。10年ほど前から大学に移り、メディア技術の広い応用を専門とする研究開発に取り組んでいます。大学の教員として「常に学生とともに学び、成長したい」と願っています。また、この3月まで北海道の私大に在籍していました。神奈川は初めてで不慣れなので、業務に限らず諸々ご指導・ご案内をよろしくお願いいたします。



【専門】メディア技術:画像処理、深層学習、XR、情報経営学

【担当授業科目】ゲームプログラミング、プログラミングA演習(C++)、IT基礎、情報リテラシー、特別セミナーI、導入ユニット、専門ユニットI/II、卒業研究

健康医療科学部 看護学科 准教授 猪又 克子(基礎看護学領域)

本年4月より看護学科に着任いたしました猪又克子と申します。看護学の基盤になる基礎看護学領域を担当しております。これまで、病院での看護師、看護大学での教育を経験した後、病院の看護管理者として新人看護師の採用や教育に携わってまいりました。これらの経験を活かし、新たな気持ちで看護基礎教育に取り組んでいきたいと思っています。批判的思考力や基礎看護技術力をもち、科学的根拠に基づいた看護実践ができる人材の育成を目指しております。どうぞよろしくお願いいたします。



【専門】基礎看護学

【担当授業科目】基礎看護学概論、基礎看護技術総論、基礎看護技術I・II・III・IV、基礎看護実習I・II、看護統合実習、看護研究II、実践総合演習

健康医療科学部 看護学科 講師 欠ノ下 郁子(小児看護学領域)

本年4月より看護学科に着任いたしました欠ノ下郁子と申します。小児看護学領域を担当しております。これまでに、子どもの精神疾患・精神的課題の早期発見・早期治療に関する研究を行ってきました。子どもを取り巻く環境は課題が多く、医療現場における支援にとどまらずに社会全体に働きかける支援活動も重要となっています。子どもたちが健やかに成長できる社会の実現を目指して、さらなる研究と幅広い分野で子どもの心と体を支援できる看護師の育成に貢献していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



【専門】小児看護学

【担当授業科目】小児看護学概論、小児看護活動論I・II、小児看護学実習I・II、看護研究II、看護統合実習

健康医療科学部 看護学科 助教 鈴木 大地(公衆衛生看護学領域)

本年4月より看護学科に着任いたしました鈴木大地と申します。海外でのフィールドワークの経験や、国際看護学の知見を活かし、公衆衛生看護学領域での教育を担当しております。昨今の健康問題は自国の問題だけでなく、国境を超えた、世界全体で共通するものへと変化しつつあります。そのような中で、看護職者が担う役割は多岐に渡り、疾病の予防の視点も重要視されるようになってきています。国内においてその予防的役割の中心を担う保健師の育成を中心に、医療のグローバル化にも対応できる人材育成に貢献していきたいと考えています。よろしくお願いたします。



【専門】公衆衛生看護学(国際看護学)

【担当授業科目】公衆衛生看護活動論、公衆衛生看護技術論、公衆衛生看護管理論、産業・学校看護学実習、公衆衛生看護学実習、実践総合演習、看護統合実習、基礎看護学実習、看護研究II

健康医療科学部 臨床工学科

助教 川崎 路浩

本年4月より、臨床工学科に着任しました。以前は病院の臨床工学技士として、体外循環、心臓カテーテル治療、血液浄化、集中治療などの業務を行ってきました。これまでの臨床経験を活かして、臨床工学技士を目指す学生の皆さんが将来像を描けるように、力を尽くす所存です。また、研究においては「臨床工学」、「医療情報学」、「人間工学」をキーワードに、医療機器操作における人間行動データや臨床データを使って、AI（機械学習）などを活用した研究を展開していく所存です。皆さんと共に学んで、私自身も成長できるよう努力して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【専門】臨床工学、医療情報学、人間工学

【担当授業科目】呼吸療法装置学、体外循環装置学、生体機能代行装置学I、医用機器学実習、生体機能代行装置学実習、臨床実習



健康医療科学部 看護学科

助手 沖田 亜希恵(在宅看護学領域)

本年4月より看護学科・在宅看護学 助手に着任いたしました沖田亜希恵と申します。これまでの臨床や訪問看護の経験を活かし、「地域の中で生活をしながら療養する方々に対するケア」や、「生活を支える看護」について学生と一緒に考えていきたいと思っています。また皆さんと共に学び、地域での暮らしを支える看護師の育成に微力を尽くしたいと考えております。よろしくお願いいたします。



健康医療科学部 看護学科

助手 佐立 優香(公衆衛生看護学領域)

本年1月より看護学科に着任いたしました佐立優香と申します。今までで病院で看護師として業務を行っていましたが、こちらでは患者さんという枠に留まらず、様々な方を対象とする公衆衛生看護学を担当しています。公衆衛生看護学では病気の患者さんへの看護だけではなく、企業、地域で活躍する保健師の役割と魅力を学生に学んでもらいます。多くの学生に興味を持ってもらえるよう、私自身も一緒に学び、日々成長していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



健康医療科学部 管理栄養学科

助手 横内 みのり

本年4月より管理栄養学科に着任いたしました横内みのりと申します。前期は臨床栄養学実習などの授業のサポートをしています。日々管理栄養士を目指して学びを深めている学生の皆さん、そして先生方の授業を支えられるように、未熟ではありますが微力を尽くしたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



KAIT news

裾野市と包括連携協定を締結

3月23日、神奈川工科大学と静岡県裾野市は、地域社会の発展と人材の育成に寄与することを目的とした包括連携に関する協定を結び、オンラインによる調印式と意見交換が行われました。

＜今後、想定する連携内容＞

- SDCC(スズノ・デジタル・クリエイティブ・シティ)構想具現化への協力(交通・モビリティ)(健康・医療)分野
- 小中学生を対象としたプログラミング教育に関係した講座や体験イベントの実施
- 神奈川工科大学が主催する科学イベントなどへの協力

高村謙二市長は「裾野市では、早くからデータ・デジタルの利活用に取り組んでおり、今回の協定により、SDCC構想へ技術的な力をいただけることに期待している。また、貴学には実験等、自然が多い裾野市のフィールドを利用いただきたい。また、小中学生向け科学イベントでは学生の若い力をぜひお借りして、一層、連携が深まることを願っている。」と述べられました。また、小宮一三学長は「本学は、研究ブランディング事業の推進、AI・IoT・ロボットの先端技術の研究など、様々なデジタル化を積極的に進めている。裾野市のSDCC構想に積極的に協力していく所存だ。」と述べました。

今後、各連携事項について、実施に向けた具体的な調整を進めていきます。

神奈川工科大学硬式野球部の3選手が受賞

令和3年度「神奈川大学野球春季1部リーグ戦」において、本学硬式野球部3名の選手が受賞しました。チーム成績は、7勝5負(勝率0.584)の4位でした。

＜首位打者＞一藤木 啓太さん

(情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科3年 東海大学菅生高校出身 打率 0.429)

＜ベストナイン賞＞

二塁手:熱田 光俊さん(情報学部情報工学科4年 帝京第三高校出身)

三塁手:一藤木 啓太さん(情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科3年 東海大学菅生高校出身)

指名打者:水野 浩一郎

さん(情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科3年 滑川高校出身)



左から、一藤木 啓太さん、水野 浩一郎さん、熱田 光俊さん

情報ネットワーク・コミュニケーション学科の学生が最優秀ハイアクティビティ賞を受賞

本学では、学術研究活動、社会活動等で活躍をした学生を教職員が推薦し、表彰する独自の表彰制度あり、2020年度では、情報ネットワーク・コミュニケーション学科の4年生の赤羽 秀さん(岡本 剛研究室所属)が「最優秀ハイアクティビティ賞」を受賞。小宮学長、納富学部長、臼杵学科長、岡本剛教授、鈴木理事により表彰式が行われました。赤羽さんは約1年間にわたり、約3000検体ものIoTウイルスを分析して、その研究成果を昨年9月に開催されたオンラインの国際会議で発表しました。論文題目は「Identification of library functions statically linked to Linux malware without symbols」で、IoTウイルスの分析に有益な知見を示しました。この研究成果をさらに発展させたものを10月に国内最大級の

セキュリティシンポジウムで発表して、学生論文賞を受賞しました(入賞率14%)。赤羽さんは、最優秀ハイアクティビティ賞受賞について「私を支えてくれる家族、研究を熱心に指導してくださる岡本剛教授、推薦してくださった先生方のおかげで最優秀ハイアクティビティ賞を頂くことができました。ありがとうございます。」と話しました。



Office Information

オフィスインフォメーション

経営管理本部

総務課

学長の選任について

2021年1月27日に開催された理事会において、小宮一三氏が学長として選任(重任)されました。(任期:2021年4月1日～2025年3月31日)

理事・評議員の就退任(重任含む)

理事退任:2名(2021年3月31日付)河野 隆二、井上 哲理
評議員退任:3名(2021年3月31日付)石田 裕昭、鈴木 隆、久保田 昌彦
理事就任:3名
(任期:2021年4月1日～2025年3月31日)
石田 裕昭、鈴木 隆、久保田 昌彦
理事重任:3名
(任期:2021年4月1日～2025年3月31日)
谷村 浩二、小宮 一三、齋藤 貴
評議員就任:3名
(任期:2021年4月1日～2023年3月31日/前任者残任期間)
前泊 哲明(選任区分:法人職員)
(任期:2021年4月1日～2022年3月31日/前任者残任期間)
平野 多嘉弘(選任区分:法人職員)
(任期:2021年4月1日～2023年1月9日/前任者残任期間)
黒古 敦(選任区分:法人職員)
評議員重任:1名
(任期:2021年4月1日～2024年3月31日)
小宮 一三(学長)

特命顧問の委嘱

特命顧問:河野 隆二

管財課

KAIT広場の体験入場がスタート

KAIT広場は昨年12月に建屋が完成し、その後の外周整備工事もほぼ終了しました。3月下旬より学生・教職員の皆さんに限定した体験入場をスタートいたしました。卒業式当日の3月20日も、卒業生の皆さん限定の体験入場を実施し、スーツや袴姿の卒業生の皆さんが入館されました。

コロナ禍により、4月～6月現在も1週間に2日程度の限定的なオープンとなりましたが、コロナが収束した後は、オープン日時を徐々に増加させて、大学外の皆様にも入館可能とする予定です。



卒業式での見学の様子

学生支援本部

教務課

今後の主な予定

<前期授業終了日>

7月31日(土)

<前期授業および到達度試験等予備日>

8月2日(月)～4日(水)

<夏期休業期間>

8月5日(木)～9月16日(木)

※夏期休業期間中に集中講義を実施する科目もあります。

<後期ガイダンス>

9月17日(金)

※実施形態(対面・オンライン)は、未定です。決定次第、KAIT Walkerにて案内いたします。

<後期授業開始日>

9月20日(月・祝)

※新型コロナウイルス感染症の状況により授業形態及び授業等に日程を変更する場合があります。
詳しいスケジュールは、本学ホームページおよびKAIT Walkerを必ずご確認くださいますようお願いいたします。

教職教育センター

令和4年度採用公立学校教員採用試験(令和3年度実施)の受験に向けて

〇6月21日～6月30日:直前対策講座

7月の1次試験合格に向けて、教職教養を中心とした講義と、受験時の留意点について説明し、本番に備えます。
〇7月中:各都道府県で採用試験の実施→1次合格発表(神奈川県は7月30日)

〇8月7日・8日(2日間):2次試験対策

1次試験合格者に対して、2次試験の受験に向けて、模擬授業や面接試験等人物試験の対策を重点的に実施します。

令和3年度実施の受験に向けた対策をスタートします。

〇7月1日:教員採用試験対策スターティングガイダンス(全学年対象)

〇9月1日～9月10日(8日間):夏期集中講座の実施(講師:東京アカデミーのスタッフ)

大手予備校の講師から受験に必要な基礎を徹底的に学び、本格的な受験対策を開始します。

〇9月10日午後:神奈川県の本年度実施問題による模試

神奈川県が本年度実施した問題に挑戦し、現段階における各自の実力測定と今後の目標を定めるための参考資料にします。

〇10月4日～12月17日(約2か月半間):「後期対策講座」の実施

前期同様に添削指導をメインとした受験対策(一般教養・教職教養・専門教科・論文等)をします。

学生課

「父母説明会・個別相談会」開催について

例年9月に本学で開催している「父母説明会・個別相談会」は、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せないため、2021年度においては、全体の説明をオンライン(オンデマンド)形式にて配信致します。(6/1より配信しております。本学ホームページ「保護者の皆様」「父母説明会(オンデマンド)」のご案内)よりご視聴ください。)また、「個別相談」につきましては、実施方法(実施の可否を含め)を検討しております。詳細につきましては、大学ホームページ等に掲載いたします。ご確認ください。

なお、この「父母説明会・個別相談会」とは別に、個別のご相談をご希望される方は、学生課までご連絡下さい。

<学生課>gakusei@kait.jp / 046-241-9394

キャリア就職課

今後の予定

2021年度大学院生対象就活セミナー:修士1年生(2023年3月修了予定者)対象

【就活セミナー1】大手企業上席社員による講話(全3回)

「社会が理学院卒生に求めるもの、期待していること」
修士卒は、仕事をする上で求められる役割や能力は学部卒とは違います。修士卒生としての職業選択に向けた準備を進めてください。また、採用試験における学部生との違い(書類や面接選考において修士卒ならではの採用のポイント)をご教示いただけます。修士卒としての役割を知る/業界・職種を知る/社会人マナーを知る

- ・第1回:6月22日(火)5限「トヨタ自動車株式会社」
- ・第2回:6月29日(火)5限「ライオン株式会社」
- ・第3回:7月6日(火)5限「トッパン・フォームズ株式会社」

【就活セミナー2】筆記試験対策

「SPI WEBテストの全貌を知る」～主要な試験の特徴を把握して、正しい対策を始めよう～

日程:7月27日(火)5限

※筆記試験対策トレーニングツールの事前登録を進めてください。

2021年度 インターンシップ(単位認定) 2～4年(授業計画)

【第1～5回】4月12日(月)～5月27日(木)まで5回終了(※オンデマンドで再確認可)

【第8回】8月7日(土)予定:<講義web配信>

事前学習(9):課題解決型インターンシップ

「チームでの課題への取り組み方講座」

※対象:課題解決型インターンシップ参加者

【第9～14回】8月後半～9月:<企業実習>インターンシップ企業参加期間

【第15回】10月初旬:<講義web配信>事後学習・報告書の書き方、まとめ方、成果発表会の計画内容と準備

『就活情報お知らせチャンネル:カッチャネ(通称)』配信中です

4年生・大学院2年生を対象に、就職活動をスムーズに進めるための情報配信をzoomで行っています。(隔週で実施)『企業選定はどうやってる?』『学内企業説明会を有効活用しよう』などをテーマに参加者とディスカッションをします。尚、配信日時は、キャリア就職課のサイト「KAIT Career」でお知らせします。

「ITを活用した教育研究シンポジウム2020」を開催

3月10日、「ITを活用した教育研究シンポジウム2020」が開催されました。昨年は開催が中止されたため2年ぶりとなった今年は、感染症拡大防止の観点から初のネット上での開催となりました。

リアルタイム配信では小宮一三学長の開会宣言を皮切りに、基調講演が続き36件の一般講演がオンデマンド配信で行われました。

基調講演では、富士通株式会社の田中一郎氏より「EdTechによる「ハイブリッド/ハイフレックス授業の実現」と題してご講演いただき、学内外からの参加者の質問に答える場面がありました。

一般講演は、事前に投稿された動画を事務局で編集し、YouTubeにて限定公開され、動画再生数は400回以上にのぼりました。ビジネスチャットツール「Slack」上では、一般講演に対する活発な議論が行われました。

社会の情報化が急速に進展する中で、学校教育においても情報技術(IT)を最大限に活用した学びの場を創造することが重要な課題となっており、「ITを活用した教育研究シンポジウム」を通して、e-Learning等のITを活用した教育法の研究や実践について発表をいただき、その成果やノウハウの共有を行っています。今回はそれに加え、AI教育研究に関する発表や本学におけるオンライン授業の取り組みなども紹介されました。(文責:情報教育研究センター助教 藤井みゆき)



※地域連携災害ケア研究センターのロゴ

地域連携災害ケア研究センター

「コロナ禍における災害対策」 ～要配慮者に対するケアを中心に～ シンポジウムを開催

本シンポジウムは、コロナ禍が続く中で、地震や風水害に伴う避難を余儀なくされたとしても、誰一人取り残されことなく全ての人の命と暮らしを守ることを念頭に、今できる対策を構築するための検討を行うことを目的とします。

<日 時> 2021年8月4日(水) 13:30～16:30

<参 加 方 法> zoomウェビナー(定員500名:無料)

<プログラム> 厚木市における災害対策/要配慮者の災害時支援について/神奈川工科大学の避難場所としての考え方と現在の準備状況/人工呼吸器使用者・人工透析を受けている立場から

※申し込み、詳細は、神奈川工科大学地域連携災害ケア研究センターのホームページをご覧ください。 <https://kait-ccd.jp/>

2020年度卒業記念・同窓会寄贈 「パラソルベンチ」を設置しました。

2021年度スタートとなった4月、本学の中央緑地公園に「パラソルベンチ」が設置されました。現在は、感染症予防の観点より椅子の数を減らして設置しています。お昼休憩や授業の合間の休憩などで利用されています。



～あなたの学びを応援する～ 基礎教育支援センターの利用について

■基礎教育支援センターとは？

高校のカリキュラムや選択科目の関係で、大学での授業に必要な科目を勉強していない、勉強はしたけれど苦手だ。という学生に個別で支援をします。

■どんな科目の指導が受けられるのか？

高校の「数学」「物理」「化学」「生物」「英語」の内容の質問、「文章の書き方」についてのサポートが受けられます。また、大学の授業で分からなかった内容や課題についても聴くことができます。英語ではTOEICの得点を伸ばすための指導もあります。

■基礎教育支援センターの利用方法

利用については現在、3通りで対応をしています。

「メール」「Zoom」「センター内での直接の指導」

質問の内容や質問の量、科目や回答してもらう時間などを考えて申し込んでください。



詳細は基礎教育支援センターの
サイトを確認してください。

